

令和 6 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	1ランク上を目指す進学指導・就職指導を柱として、地域連携や探究学習、語学学習を推進し、基本的生活習慣の確立、部活動の活性化によって自律心と自己有用感を育み、主体性と創造性を伸ばす。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり 5 業務カイゼンへの取組
-------------------	--	----------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 (3月)		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 確かな学力の育成	○学力の向上 ・基礎的・基本的な知識及び技能の習得 ・思考力、判断力、表現力の更なる育成 ・主体的・対話的で深い学びの実現	・ICT活用について教員間の個人差がある。 ・生徒のChromebookが十分に利用されていない。	・組織的な授業改善 ・BYADに伴った更なるICT活用	・校内や教科内でGoogle Workspaceやスタディサプリの活用、ルーブリック評価等について情報共有や研修を行う。	・Google Workspace Plusも導入され、研修を通して指導力の向上を図った。 ・教科によりスタディサプリの活用に差があった。 ・ルーブリック評価の研修を実施した。	B	・スタディサプリの活用について、年間の活用方法や1年から3年までの活用の見通しを計画し、実施する。 ・ICTの活用について、効果的な活用となるように授業研究等で継続しての取組を行う。 ・授業のDX化を推進するため研修会、講習等を継続して実施する。
			・各系列の特色化と資格取得の促進 ・資格試験合格率70%以上	・Google ClassroomやCANVA等を活用し、生徒のChromebookの利用を増やす。	・SHRの連絡や、進路学習や探究学習などの教科授業以外についての活用が推進できた。 ・教員間の情報共有を行った。 ・ICT支援員の支援により、授業やその他の活動で生徒のClassroomの活用は進んでいる。	B	・引き続き、Chromebookの利用について、教科内での活用するための指導方法や研修を行う。 ・生徒には、Chromebookの日々の持参や家庭での充電について粘り強く指導する。 ・Google Workspace についてICT支援員による活用研修等を企画する。
				・系列ごとの各種資格・検定の受験を促し、合格に向けて支援する。	・検定受験を促し、上位資格(1・2級)の合格率は、英語検定17%、情報処理検定62%、ビジネス文書実務検定60%、保育検定65% ・実用英語技能検定の受験を促し、英作文や面接の個人指導を行うことができた。 ・簿記検定に向けての講習を行って支援したが、2級取得とはならなかった。	B	・各種検定の合格に向けて、放課後等の個別学習の継続。 ・資格取得のための意欲を向上するために目標を立て、進路での活用意識向上を図る。
				・学校独自事業を充実させ、特別支援学級と交流する。	・学校独自事業について継続事業の見直しと新規企画の検討を行った。 ・特別支援学級との交流は5月末に1回目を実施し、2回目を11月初めに実施した。	A	・引き続き、事業の更なる充実を目的として、継続事業の見直しと新規事業の検討を行う。 ・特別支援学級との交流については継続していく。
			・学習における生徒の主体的な取組	・スタディサプリを活用し、家庭学習習慣の定着を図る。 ・スタディサプリの利用について指標化する。 ・学習時間調査で1日あたり2時間以上の家庭学習を目指す。 ・朝読書の徹底(朝読取組100%)	・スタディサプリは、夏季休業中利用率が、1年次生67%、2年次生60%、3年次生15%。 ・2月にスタサプウィークを実施し、活用を行った。 ・家庭学習時間調査で、1日平均1時間強と目標には大きく足りていない。 ・朝読書の指導は行っているが、100%の取組にはなっていない。	C	・スタディサプリについて、年度当初に教員への活用研修や生徒に対する活用推進を図っていく。 ・家庭学習の取組のため、日頃より主体的に学習に取り組む姿勢を指導し、評価する。 ・スタディサプリを活用した家庭学習の取組について検討していく。 ・朝読書を徹底するために、指導体制を整える。 ・教科で扱う内容について、本の紹介など読書のすすめを行う。
2 豊かな人間性の育成	○基本的生活習慣の定着	・あいさつをする生徒が増えつつある。 ・自転車通学生徒のヘルメット着用率は低い状況だが、着用する生徒は増えている。 ・遅刻者数は昨年、年度末にかけて減少した。特に安易な遅刻は減らすという意識が高まっている。 ・一部、服装を含め、校則に対して意識が高まらない生徒がいる。 ・SNSに起因する問題行動に対して、迅速に対応している。 ・朝読書で本を準備しない生徒や本を開いているだけの生徒がいる。 ・図書館の本を期限内に返却しない生徒がいる。	・ルールを守りけじめある生活を送る。	・掃除、整理整頓の徹底と挨拶の励行 ・身だしなみ、礼儀に対する日常的な指導と声かけを行う。 ・デジタルシティズンシップ講演、ヘルメット着用啓発運動を実施する。 ・保護者及び地域のボランティアの方と連携し、ふれあい運動を行う。	・掃除、整理整頓は多くの生徒は意識して取り組み、きちんとできているが、全体として十分に徹底できなかった。 ・生活指導面において、指導の結果、改善の兆しがみられる。 ・デジタルシティズンシップ講演、ヘルメット着用啓発運動を実施したが、一部で不適切なSNS利用・自転車乗車があった。 ・保護者及び地域のボランティアの方と連携しふれあい運動を行った。	C	・毎月の服装指導、日々の粘り強い生活指導を学年と生活指導部と連携し、継続していく。 ・朝の服装指導週間を実施する。 ・服装再指導の生徒を把握し、必要に応じて保護者への連絡を密に行う。 ・全職員による生徒への声かけを継続して行い、生徒との関わりを増やしていく。 ・SNSでのトラブル未然防止のためデジタルシティズンシップ講演会を年度当初に開催する。 ・引き続き、生徒会と連携したあいさつ運動を継続して行う。
			・欠席・遅刻者数が前年度比半減する。 ・安全意識が高まり、自転車ヘルメットの着用率が100%になるよう指導する。	・安易な欠席・遅刻を減らすことを求め、皆勤を奨励する。 ・遅刻確認票による遅刻者指導と保護者連絡を行う。	・安易な欠席・遅刻を減らすことを指導している。 ・全体として、12月 末現在の欠席者は前年比86%、遅刻者は88%である。 ・遅刻確認票の徹底が十分ではなかった。	C	・遅刻欠席の連絡フォームを見直し、保護者と連携して継続的に指導する。 ・引き続き、卒業後の社会人としてのマナーを意識した指導を行う。 ・進路決定後の学校生活について、指導を徹底していく。 ・遅刻確認票による指導の徹底を図るために、生活指導部と担任との連携、チェック体制の充実を図る。
			・本を自ら準備し、読書の大切さを認識させる。 ・毎月の延滞生徒を10名以下に減らす。	・交通安全週間に自転車ヘルメットの着用指導を行う。 ・生徒会執行部によるあいさつ運動及びヘルメット着用の呼びかけを行う。	・生徒会執行部と連携したあいさつ運動(4月・9月)と自転車ヘルメット着用指導(随時)を実施。 ・自ら挨拶ができる生徒が増えつつある。 ・米子警察署から自転車安全運転推進リーダーとして市内でのヘルメット着用推進を訴えたが、登校時での自転車ヘルメットの着用率は依然として50%程度である。	B	・生徒同士で呼びかける場面を設定する。 ・自転車運転での交通ルールやマナーを意識させる指導を継続して行う。
				・生徒アンケートに基づいた店頭選書を実施する。 ・督促状を発行する前に各教室で声かけを行う。	・生徒アンケートに基づいた店頭選書を行うことができた。 ・延滞生徒に呼びかけを10月より月2回にすることで延滞者数の減少傾向行った。	B	・引き続き、生徒アンケートに基づく店頭選書を実施。 ・貸出延滞や所在不明な本がないよう継続して担任と連携を行う。

年 度 当 初					評 価 結 果 (3)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
2 豊かな人間性の育成	○生徒の主体的活動の推進(国際交流・部活動)	・STAへの短期留学が再開した。 ・生徒会執行部が主体的に学校行事等の企画・運営をして活動することができている。 ・生徒情報を職員間で共有して支援に繋げている。 ・外部関係機関と連携を図っている。 ・学校生活アンケートで、自己肯定感が高い生徒が80%を超えている。	・生徒が校内外の様々な活動に積極的に取り組む。 ・学校生活をより良くするための活動を企画・実施する。 ・生徒が部活動に積極的に参加する。	・姉妹校との国際交流の継続 ・様々な活動に関する情報発信 ・生徒の活動を紹介することによる参加意欲の喚起 ・ボランティア活動の推進	・姉妹校のセント・トーマス・アクワイナス高校との交流が再開し、相互交流を続ける体制が整った。 ・香港翁祐中学校との交流、韓国江原外国語高等学校と姉妹校提携し、生徒の国際交流の機会を増やすことができた。 ・ボランティアは個人や部活動単位での参加があり推進できた。	A	・STAとの交流を継続する。 ・韓国江原外国語高等学校と交流に向けて準備を行う。 ・国際交流した生徒には、他の生徒への還元の機会を設ける。
				・生徒の委員会活動と連携したあいさつ運動を行う。学期末に全校で校内清掃を行う。	・生徒の委員会活動と連携したあいさつ運動を行った。 ・学期末に全校で校内清掃を行った。	A	・引き続き、あいさつ運動等、執行部を中心として生徒への参加呼びかけを行う。
				・生徒会執行部を中心とした生徒会行事等の活動を充実させる。	・生徒会執行部を中心に球技大会、学校祭の企画・運営、活動の充実を図った。 ・各行事の事後アンケートは90%以上が満足したと回答した。 ・多くの生徒が部活動に粘り強く取組んでいるが、全員加入に至っていない。	A	・引き続き、生徒会行事の企画・運営、活動の充実を行っていく。 ・部活動に所属していない生徒や所属部活動を変更する生徒とこまめに面談を行い加入促進を図る。
	○支援が必要な生徒への援助	・生徒情報を教員間で共有・把握し、適切な支援ができる。 ・豊かな人間関係を築き、生きる力を育む。	・個別の面談や各種アンケートを通じて、生徒の困り感に寄り添う。 ・日常的に情報を共有し保護者と連携する。	・情報共有の会を4月および10月に実施し、教育相談アンケート、学校生活アンケートも含め、困り感のある生徒に声をかけることができた。 ・個別の面談や保護者との面談・連携をとおして情報を共有し、生徒が学校生活を続けられるように適切な支援に努めた。	B	・引き続き、迅速な情報共有を積極的に行い、早期解決に努める。 ・担任等と連絡を密に行い、保護者と面談する機会をもつ。多方面から情報を収集して対応する。 ・GoogleFormsによるアンケートについて、用紙での提出を含め、生徒の回答率が上がる方法を検討する。	
			・特別支援教育に関する校内研修、情報共有、外部関係機関との連携により、適切な支援、対応を行う。	・特別支援教育に関する校内研修、情報共有、外部関係機関(医療機関、市町村、児童相談所、障害者就業・生活支援センター等)と連携している。	A	・引き続き、日常的かつ定期的に情報を共有・把握して対応する。	
			・生徒が主体となり、活力のある人権学習を構築する。	・10月から全学年で人権教育LHRを実施した。 ・生徒が主体的に人権教育に関する調べ学習やテーマ学習を行い活動することができた。	A	・引き続き、人権学習委員を中心に生徒が主体的に活動できる取組を行う。	
3 自己実現のための進路指導の充実	○探究学習の充実	・「探究学習」にSDGsの視点を導入することで全学年の系統的なキャリア教育の構築に務めている。 ・「産業社会と人間」から「総合的な探究の時間」の系統性を検討している。 ・令和5年度は、大学進学38名(内国公立7名)の結果であり、就職29名(内公務員3名)であった。 ・特に就職希望者へのフォローが主目的である2年次生への進路ガイダンスおよび企業見学が実施できた。 ・岡山・広島・山口への先進校視察を実施し、スタディサプリ導入など視察を反映した新たな取り組みを実施した。	・進路実現に向けて主体的に努力し学びに取り組む態度の育成 ・学習成果発表会の発表内容の充実	・「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」の系統的な探究学習の深化	・「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」において、系統的な探究学習に向け、各種取組みを計画的に進めている。	B	・引き続き、生徒の実態を把握し、進路指導・キャリア教育を意識した系統的な探究学習の展開を検討する。
				・外部との連携および先進校、先進地域の手法を取り入れた探究活動の充実	・県外高校へ視察訪問し、取組状況を研究をした。 ・岡山夢育PBLフォーラムに参加し、今後の研究発表や研究内容について検討した。	B	・地域のニーズや全国の多様な取組をもとに充実した探究活動について教職員間で意見交換を継続的に実施する。 ・地域協働推進協力事業を活用し、探究学習の充実を図る。
	○キャリア教育の発展	・令和5年度は、大学進学38名(内国公立7名)の結果であり、就職29名(内公務員3名)であった。 ・特に就職希望者へのフォローが主目的である2年次生への進路ガイダンスおよび企業見学が実施できた。 ・岡山・広島・山口への先進校視察を実施し、スタディサプリ導入など視察を反映した新たな取り組みを実施した。 ・学習成果発表会で発表内容を更にブラッシュアップしていきたい。	・大学進学40名以上(内国公立10名以上) ・教員の進路指導力の向上とスタディサプリを用いた学力向上 ・進路目標に対する具体的な取組(校外模試受験者の増加等)	・スタディサプリの活用による学習意欲の喚起と主体的な学習態度の育成 ・自らの成長を実感できる取り組みとして、キャリアパスポートを活用した進路指導を実施	・学習意欲の高揚のため、スタディサプリの活用が十分ではない。 ・スタディサプリの4月からの1人あたりの平均視聴時間は1年次生53分、2年次生131分、3年次生64分だった。 ・キャリアパスポートは年度初めの個人面談で活用したほか、毎学期のLHRで記入し、活動を振り返っている。	C	・生徒の実態を把握し、主体的な学習態度と学力の向上のため、スタディサプリの活用方法について検討する。 ・ステディサプリについて、進路指導・キャリア教育を意識した効果的な活用について情報を収集・共有し、利用者・視聴時間の増加を目指す。 ・キャリアパスポートを効果的に活用した進路指導の検討。
				・学習成果発表会における外部評価に値する研究成果の充実	・中学生の参加名、保護者名、外部関係者名の参加があった。 ・学校運営委員より一定の評価を得た。	A	・引き続き、産業社会と人間、探究学習の発表、地域への発信、特に中学生への本校探究学習の姿や入学後の取組への理解を得るように実施していく。
	○進路指導の充実	・大学進学40名以上(内国公立10名以上) ・教員の進路指導力の向上とスタディサプリを用いた学力向上 ・進路目標に対する具体的な取組(校外模試受験者の増加等)	・外部講師による公務員講座の充実と放課後学習会の実施	・少ないながら公務員講座や夏期・冬期講習への参加生徒が増え、進路意識に改善の兆しがみられる。	B	・1年次生、2年次生に対して早期から進路指導・キャリア教育の充実を図る。 ・引き続き、放課後学習会の実施。	
			・進路ガイダンスの前倒しによる進路実現活動の早期化	・進路ガイダンスを2年次の3学期から実施。 ・国公立大学7名(昨年7名)、私立大学32名(昨年31名)の合格と就職内定32名(昨年38名)であった。 ・校外模試受験者のべ300名	B	・引き続き、全体計画及び生徒の実態を把握し、早期から進路指導・キャリア教育の充実を図る。	
				・各種職場体験の実施による確かな就職先選び ・担任によるきめ細かい面接指導と情報発信 ・探究学習の充実による進路保障 ・面接を提案型にする。	・担任による提案型を意識した面接を行うことができた。 ・進路指導部と連携して、生徒に進路に関する情報発信を行った。	B	・引き続き、生徒の実態を把握し、進路保障につながる指導を全職員で行う。 ・面接週間に限らず、日頃から進路に関する情報発信を行う。

様式B	年 度 当 初					評 価 結 果 (3)月		
	評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
4 地域との連携による学校づくり	○地域のニーズに応じた地域貢献		・地域との連携により学校への信頼、期待がなされている。	・地域の魅力を再確認し、地域の活性化に向けた具体的な行動を起こす生徒がいる。 ・文化芸術活動、系列での事業、総合的な探究の時間を通して地域のニーズに積極的に応える。 ・自己有用感・自己肯定感を地域連携によって醸成する。	・部活動における各種イベントの企画・開催と参加(ハイホット・ダンスフェスティバル、施設訪問、書道パフォーマンス) ・部活動単位におけるボランティア活動等地域への参画	・部活動における各種イベントの企画・開催は予定どおり実施し、新たな取組(音楽発表会)も検討し実施した。 ・部活動単位におけるボランティア活動等で、地域貢献できた。	A	・引き続き、生徒の活動を地域に発信し、地域のニーズにも積極的に応えていく。
					・系列事業、総合的な探究の時間における活動で地域貢献を促進(イチゴ栽培・収穫交流、花壇用草花植栽活動、プログラミング教室、夢蔵プロジェクトとの連携)	・系列事業、総合的な探究の時間における活動を予定どおり実施した。	A	・引き続き、地域貢献活動を促進していく。 ・地域への発信や新たな取組について、更に検討する。
					・ボランティア体験事業、中海清掃、皆生トライアスロンボランティアなどのボランティア活動に多くの生徒が参加をしている。 ・情報発信については、ホームページの更新を迅速に行うことができている。	・ボランティア体験事業、中海清掃、皆生トライアスロンボランティア32名(昨年12名)の参加があった。その他、地域のボランティアにも参加する生徒がいた。 ・手話パフォーマンス選手権では司会を務めるなど米子高校の生徒が活躍した。	A	・引き続き、積極的な参加に向け、ボランティア活動の理念を高めるための指導を行う。
	○積極的な社会参画と情報発信			・社会に繋がる教育活動を推進 ・ホームページの充実	・高校生出前キャリアガイダンス、夢プロジェクト等地域社会との繋がりによる生徒活動の活性化	・米子市法勝寺川水辺の楽校推進協議会主催「水辺の学校」、福生中学校主催「チャチャチャプログラム」への参加等、地域社会との繋がりによる生徒活動の活性化を行った。 ・3年次生「ファッション造形」の授業では新たに尚徳小学校を訪問し、5年生家庭科の裁縫授業の支援を行った。 ・12月に中学校(9校)に高校生出前キャリアガイダンスを実施、2月に小学校(1校)に高校紹介ガイダンスを実施した。	A	・引き続き、生徒の活動を地域に発信し、地域のニーズにも積極的に応えていく。
					・マスコットキャラクターや総合学科の特色ある取組を活用した各種イベントへの積極的参加	・「出かける体験入学～トトリハイスクールアドベンチャー～」に参加し、本校の魅力を発信した。 ・マスコットキャラクターは中学校説明会や部活動単位で扱い、周知を心がけた。	A	・引き続き、学校行事だけでなく、地域の行事やイベントでマスコットキャラクターの活用を推進する。
					・総合美術展、学習成果発表会の開催による情報発信	総合美術展来場者415名(令和5年度300人、令和4年度170人、令和3年度117人)	A	・次年度の実施に向けて準備していく。
					・ホームページで総合学科の魅力(生徒の主体的な取組と成果)を発信 ・職員全員が1件以上の記事をUPする。	・ホームページで学校行事や生徒の活躍をタイムリーに紹介できた。 ・職員の半数以上が記事をUPした。 ・新たな取組として、美術・漫画研究部がYouTubeで交通安全ワークショップでの作品制作の様子をUPした。	A	・引き続き、タイムリーな発信を行っていく。 ・ホームページへの記事の掲載について、教員1人1件以上掲載を引き続き協力を仰ぐ。
5 業務カイゼンへの取組	○業務の見直しによる時間外業務の削減及びその他の業務時間の確保			・時間外業務時間が前年度比10%減	・各分掌の業務内容・業務分担の見直し及び他分掌との連携 ・平日の電話応対時間の変更	・各分掌の業務内容・業務分担の見直しと他分掌との連携を進めた。 ・分掌内で協力しての業務や分担を行い、時間外業務時間の削減に努めた。 ・平日の電話応対時間を変更した。	B	・引き続き、時間外業務削減に向けて、全職員が実態を把握し、具体的な取組について検討する。
					・勤怠システムのセルフチェック、時間外勤務時間を翌日に入力することで意識付けを行う。 ・部活動顧問の時間外業務の削減(外部指導者、部活動指導員との連携) ・ICTの活用	・管理職が継続してセルフチェックを呼びかけた。 ・ICT活用や顧問間の連携等、部活動指導に関わる業務削減に努めた。 ・時間外業務時間12月まで9214時間(前年8417時間)	B	・時間外業務削減に向けて、全職員が実態を把握し具体的な取組について検討する。
	○声かけによるサポート			・長時間勤務者の把握と対策 ・分掌業務の効率化 ・休暇を取得しやすい環境づくり	・共有ファイルの活用・ダブルチェック・連絡方法の工夫 ・教員業務支援員との連携	・各分掌・学年で共有ファイルの整理・活用と連絡方法の工夫に取り組んだ。 ・データ入力時のダブルチェックについて見直しを行った。 ・教員業務支援員との連携を継続して行った。	B	・フォルダに関する整理整頓を継続して行い、全教職員がわかる工夫(ファイルのまとめ方、ファイル名、年または内容)を行っていく。 ・引き続き連絡を密に行い、協力して業務にあたる。 ・教員業務支援員に依頼するとともに、業務内容の精査を行う。
					・業務に対する意識改革(長時間勤務者への声かけ) ・帰らーDAY(定時退勤日)、リフレッ週、対外業務停止日、年休取得推進月間の設定	・業務の分業を行う分掌があった。 ・管理職が長時間勤務者に対して、声かけや資料配付を行った。 ・帰らーDAY、リフレッ週、対外業務停止日、年休取得推進月間を可視化して設定し、年休取得の促進を図った。	B	・引き続き、休暇を取得しやすい職場づくり(見通しを持った業務計画・声かけ)に努める。

評価基準 A: 十分達成[100%] B: 概ね達成[80%程度] C: 変化の兆し[60%程度] D: まだ不十分[40%程度] E: 目標・方策の見直し[30%以下]